

林 重雄<sup>1</sup>：愛知県渥美半島にコブシメの甲の漂着Shigeo HAYASHI<sup>1</sup>：A cuttlebone of Broadclub cuttlefish *Sepia latimanus* stranded on the beach of Atsumi Peninsula, Aichi Prefecture, Japan

イカの甲は、コウイカのような硬質の甲と、スルメイカのような透明な軟甲とに分けられる。このうち、白い石灰質の甲は浜辺ではよく目につくものである（石井 1999）。イカの骨とも言われるコウイカ類の甲は石灰質の貝殻で、持ち主が死んでも甲は腐らずに浮力を持ち海面を漂い続ける（奥谷 1991）。コブシメ *Sepia latimanus* は外套長40cm以上、九州南部から南の熱帯西太平洋およびインド洋の沿岸域にすむコウイカ類である（奥谷 2000）。コブシメの甲は背面顆粒状で、殆ど肋を認めない。内円錐は平低でコウイカのそのような張り出しを作らず棘は強い（奥谷 2015）。

渥美半島の太平洋側には砂浜海岸が連続し、通称片浜十三里と呼ばれている（田原市 2008）。太平洋に面する海岸一帯は、初夏から漂着物が打ち上げられるシーズンとなる（林 重雄 ブログ）。2016年6月に愛知県田原市で、コブシメの甲の漂着を確認したのでここに報告する。

**漂着記録** 2016年6月18日、愛知県田原市堀切海岸（図1）で漂着物の調査を行った。その際、当日の高潮線よりも高い位置にあった漂着物の集中帯上で、多数の黒潮起源の漂着物が見つかった。その中で他のコウイカ類の甲よりも圧倒的に大きな、コブシメの甲を確認した。漂着していたコブシメの甲は、一部欠損もあるものの完全体の復元が可能なるもので、甲長420mm、甲幅120mm、甲厚45mm、漂着直後の重量は乾燥していたが592gでずっしり重かった（図2）。甲長は欠損部を復元すれば、450mm程度になったものと思われた。コブシメの内円錐はV字状で狭く、棘は全長20mmの円錐状であった（図3）。

コブシメに随伴して打ち上げられた漂着物で特に目立ったのはペットボトル、ライターなどの台湾の製品と、中国などで使われた青い紡錘型をした刺網用の浮きであった。その他に注目される漂着物では、ヒルガオガイ *Recluzia lutea*、ルリガイ *Janthina globosa*、カツオノエボシ *Physalia physalis*、カツオノカンムリ *Veella veella*、オキナガレガニ *Planes cyaneus* の漂着も確認した。漂着果実や種子では目立つものは少なかったが、ココヤシ *Cocos nucifera* 1個の漂着を確認した。多くの漂着物にはルリエボシ *Lepas pectinata*、エボシガイ *Lepas anatifera*、カルエボシ *Lepas anserifera* の付着が認められた。

**考察** 6月18日、堀切に至近の伊良湖岬の天気は快晴、平均気温24.6℃、南南西よりの平均風速3.1m、満潮は午前3時37分と午後5時9分で、潮位はどちらも163cmであった（気象庁ホームページ）。なお調査日の満潮汀線には漂着物は少なかった。神奈川県水産技術センターの海況図データベース 関東・東海海況速報によれば、6月15日の海況図で潮岬から東に伸びた黒潮の反流が遠州灘から渥美半島の太平洋岸沖合いにかけて流入していた。そこに海の荒れた6月16日は東よりの平均風速5.3mで、



図1 調査地点の位置・愛知県田原市堀切海岸

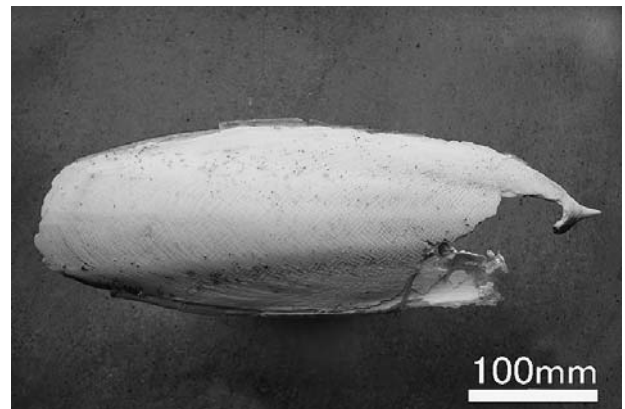


図2 漂着したコブシメの甲背面



図3 漂着したコブシメの甲腹面部分拡大

東南東よりの瞬間最大風速15.9mを記録しており（気象庁ホームページ）、堀切で散見された黒潮起源の漂着物は、他の漂着物と一緒に風の影響を受け、断続的に打ち上げられたものと推測される。これまでに渥美半島表浜でコブシメの漂着は少なく、漂着状況は破損が大きく断片的なものがほとんどで、今回のように完全体に近い個体の漂着は稀であり、黒潮の特異な流向と反流が一助になったものと思われる。この傾向は2012年の同時期にも見られ、2012年にも完全体にやや近いコブシメの甲の漂着が1例あったことを付記しておく。

**謝辞：**本稿をまとめるにあたり表浜ネットワークの田中雄二氏には、豊橋市表浜での漂着状況を教えて頂いた。北海道教育大学札幌校の鈴木明彦教授には、粗稿を見ていただいた。ここに記してお礼申し上げる。

### 引用文献

- 林 重雄ブログ. Beachcomber's Logbook (<http://beachcomb.exblog.jp/>)  
石井 忠. 1999. 新編漂着物事典. 380pp. 海鳥社, 福岡.  
神奈川県水産技術センター海況図データベース 関東・東海海況速報  
(<http://www.agri-kanagawa.jp/suisoken/kaikyozu/KantoTokai.asp?y=2016&m=06&d=15&disp=s&n=3&tn=01>)  
気象庁ホームページ. (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)  
奥谷喬司. 1991. 泳ぐ貝, タコの愛—軟体動物のふしぎな生態. 163pp. 晶文社, 東京.  
奥谷喬司. 2000. 日本近海産貝類図鑑. 1174pp. 東海大学出版会, 東京.  
奥谷喬司. 2015. 新編・世界イカ類図鑑ウェブ版. (<http://www.zen-ika.com/zukan/pdf/cs001.pdf?idx=1>)  
田原市. 2008. たはらの海辺の博物誌. 95pp. 田原市, 愛知.

(Received Aug. 2, 2016; accepted Aug. 12, 2016)

---

<sup>1</sup> 〒486-0844 愛知県春日井市鳥居松町3-155

<sup>1</sup> 3-155 Toriimatsu-cho, Kasugai City, Aichi 486-0844 Japan